

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	南山大学
設置者名	学校法人 南山学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人文学部	キリスト教学科	夜・通信	194	2	2	198	13	
	人類文化学科	夜・通信	188	2	8	198	13	
	心理人間学科	夜・通信	181	2	15	198	13	
	日本文化学科	夜・通信	192	2	4	198	13	
外国語学部	英米学科	夜・通信	198	0	0	198	13	
	スペイン・ラテンアメリカ学科	夜・通信	176	0	22	198	13	
	フランス学科	夜・通信	198	0	0	198	13	
	ドイツ学科	夜・通信	198	0	0	198	13	
	アジア学科	夜・通信	196	0	2	198	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	180	0	18	198	13	
経営学部	経営学科	夜・通信	168	0	30	198	13	
法学部	法律学科	夜・通信	183	0	15	198	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信	170	0	28	198	13	
理工学部	ソフトウェア工学科	夜・通信	196	0	2	198	13	
	データサイエンス学科	夜・通信	196	0	2	198	13	
	電子情報工学科	夜・通信	155	0	9	164	13	

	機械システム工学科	夜・通信	164	0	0	164	13	
	ソフトウェア工学科(旧)	夜・通信	196	0	2	198	13	
	システム数理学科	夜・通信	164	0	0	164	13	
	機械電子制御工学科	夜・通信	164	0	0	164	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信	137	0	8	145	13	
(備考)「ソフトウェア工学科(旧)」、2020年度入学生までが該当し、2021年度以降の入学生は「ソフトウェア工学科」該当します。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

教務課 Web ページ内のシラバス検索で「実務経験のある」というキーワード検索が可能
<https://office.nanzan-u.ac.jp/KYUUMU/course-class/class08.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 (該当なし)
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	南山大学
設置者名	学校法人 南山学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Web ページ「学園概要」の「役員一覧」に掲載 https://www.nanzan.ac.jp/outline/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	宗教法人 代表役員 修道会 日本管区長	2023. 12. 11 ～2026. 12. 10	設置母体による経 営全般への助言
非常勤	宗教法人 代表役員 修道会 日本管区長	2025. 02. 01 ～2025. 06. 24	設置母体による経 営全般への助言
非常勤	宗教法人 法人事務局 会計	2025. 03. 01 ～2028. 02. 29	宗教関係事業全般
非常勤	株式会社取締役常任 監査等委員	2024. 07. 01 ～2027. 01. 31	経営・企画全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	南山大学
設置者名	学校法人 南山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業計画(シラバス)記載項目の留意点および記載例を各科目担当教員に配付し、コーディネータは自身の担当するコーディネート担当科目の全シラバスの内容確認を行う。なお、単なる編集上の確認(記載内容の有無や語句修正等)だけでなく、カリキュラムポリシーに基づいた確認を実施している。 授業計画(シラバス)の作成過程： ・前年度11月末頃に授業のコーディネータに説明を実施 ・各授業の担当教員は12月～1月中旬までにシラバスを登録 ・登録後は第三者としてコーディネータが内容確認を実施、2月上旬に校了。教務課での校正などを経て、Webでのシラバス公開は3月上旬。	
授業計画書の公表方法	(教務課 Web ページ) http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUUMU/course-class/course05.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業計画（シラバス）に記載された成績評価の方法・基準のとおり各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の認定授与または履修の認定を行っている。成績付与に関しては履修規程および試験規程にて定めている。 南山大学公式 Web ページ 教務課 Web ページ 「履修要項・履修案内等」 ■履修要項 2025 年度入学者用 「南山大学授業科目履修規程」第 6 章 履修成績および単位の授与、「南山大学試験規程」の履修要項内に記載 https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/course-class/rishuyoko01.html	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学生の成績を数値化した GPA(Grade Point Average)を用いた制度を導入しており、算出方法をあらかじめ設定し、成績ごとの配点や計算式、履修中止の取扱い等について学生に公表している。GPA とは、本学で成績評価に用いられてきた成績に対応した Grade Point (GP) を用い、履修した科目成績の平均を出すものであり、学期 GPA、通算 GPA の 2 種類がある。なお、GPA の算出除外科目は次のとおりである。 ・ PF 評価方式科目 ・ 認定科目（編・転入、転部・転科、留学、外国語能力試験 等） ・ 履修中止科目 ・ 卒業要件に算入しない科目 ※「客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料」は別添	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	(教務課 Web ページ) https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/exam-grade/grade03.html (履修要項 P.269) https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/course-class/item/2025_gakubu.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 大学は卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、これを基に各学部・学科において卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めて、Web 等により公表している。 南山大学の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は以下のとおり。 「南山大学は、キリスト教世界観に基づく学校教育を行うことを、その建学の理念としています。この理念の下、「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati) という教育モットーを掲げ、幅広い教養の上に各学部の専門性に応じた知識および能力を持ち、人間の尊厳を尊重しかつ推進する人材を育成することを目的としています。 南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、各学部学科のディプロマ・ポリシーが定める次の力を身につけた者に対して、学士の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 幅広い教養と深い洞察力に支えられた、各専門領域における知識・理解 【Ⅱ 技能】 厳しい知的訓練のもとに培われた、異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にする論理的思考やコミュニケーションの技能 【Ⅲ 態度・志向性】 多様性を尊重し人間の尊厳のために学知を用いる態度・志向性 【Ⅳ 総合力】 現代の諸問題に関する自身の見解を専門知に裏付けられた適切な方法で表現し展開する学術的な総合力 南山大学では、卒業の認定に関する方針および卒業要件（4 年以上在学して学部学科所定の単位を修得）を満たす者について、学部教授会、大学評議会の審議を経て、学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	公表方法：Web で公開 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/hoshin/policy_university.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	南山大学
設置者名	学校法人 南山学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
財産目録	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
事業報告書	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
監事による監査報告(書)	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人南山学園事業計画書 対象年度: 2025)
公表方法: https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
中長期計画(名称: 学校法人南山学園中期計画(第2期) 対象年度: 2025~2029)
公表方法: https://www.nanzan.ac.jp/data/mtp.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公表方法: Web で公開 https://office.nanzan-u.ac.jp/kyogaku/naibusitsuhosho/jikoten/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公表方法: Web で公開 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/ninsho/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規定・学則「南山大学の目的に関する規程」）
（概要） 人文学部は、建学の精神であるキリスト教世界観に立脚し、「人間とは何か」「人生とは何か」「人と人の対話はいかになされるべきか」といった根元的な問題を深く考えることと同時、人文学の専門分野を深く追究しながら、幅広い教養的知識と人間に関する深い洞察力を養えるよう教育を行うことを目的としている。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html#policy ）
（概要） 人文学部は、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（人文学）の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 1. 人文学が扱う学問領域および研究手法に関する基本的知識 2. 文化、歴史、社会および人間のあり方に関する幅広い教養 3. 現代の問題を洞察・理解する力 【Ⅱ 技能】 1. 資料調査、文献読解、文書作成を行う基礎的なアカデミック・スキル 2. 物事を論理的に分析し、その結果を表現する力 3. 異なる背景を持つ他者との対話を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 1. 他者との協働のために、歴史的、社会的、文化的な背景を理解しようと試みる知的態度 2. 人文学を学ぶ者としての倫理を備え、人間の尊厳を尊重する態度 【Ⅳ 総合力】 1. 現代の問題状況を洞察・理解する力 2. 問題解決に必要な方法・手段を見いだす力 3. 問題解決に必要な専門的知識を創造的に応用する力 4. 現代社会の諸問題に対する自分の考えを表明する力 〔共通教育科目〕 【Ⅰ 知識・理解】 人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養 【Ⅱ 技能】 異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html#policy>)

(概要)

人文学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。

I. 教育課程の構成

本学部では学問領域の垣根を越えて、「人間とは何か」「人生とは何か」「人と人との対話はいかになされるべきか」という問題について考察を深め、人間存在に関わる根源的な問いに向き合うために必要な洞察力を養います。教育課程は、学部共通科目、学科科目、共通教育科目から構成されます。学部共通科目と学科科目によって、キリスト教学科、人類文化学科、心理人間学科、日本文化学科がそれぞれ提供する、言語・文化・社会・歴史・人間の在り方にまつわる現代の様々な問題について、深く専門的に理解する力を涵養します。共通教育科目によって幅広い知識と教養を修得し、専門的理解の基盤を培います。

II. 教育内容

【1. 学部共通科目および学科科目】

《4年間を通じて》

●「リベラルアーツ」の精神に基づく全人的教育を軸としたカリキュラムをとおして、人間をめぐる根本的な問題について考察します。各学科では専門分野における課題を追究することで、人間に関する広く深い洞察力を修得します。

《1年次以降》

●多様な分野の専門科目をとおして、言語・文化・社会・歴史・人間の在り方について幅広い基礎知識を修得します。

●学部共通科目をとおして、学問領域の垣根を越えた横断的・総合的な視座を養い、背景の異なる他者とともに成長しながら自身の現状をよりよくしていこうとする知的姿勢を身につけます。

●学部共通科目において、教職、博物館学芸員、図書館司書、学校図書館司書教諭などの資格を得るのに必要な力を修得します。

《2年次以降》

●多様な分野の専門科目をとおして、言語・文化・社会・歴史・人間の在り方について幅広い教養を身につけ、現代人、現代社会が抱える様々な問題を理解、洞察する力を修得します。

《3年次以降》

●演習をとおして、専門分野における研究に取り組みます。

《4年次》

●自身が選んだ専門領域において、深く追究する方向性を見極めた上で、選んだテーマについて研究プロジェクトを推進し、研究報告論文（卒業論文）を執筆します。

【2. 共通教育科目】

《4年間を通じて》

●キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目（宗教科目、「人間の尊厳」科目等）において、人間と学問の在り方を考える力を養います。

●文理融合を目的とした科目（基盤・学際科目、体育科目等）において、学際的な視野と

総合的な判断能力を養います。 ●「聞く・話す・読む・書く」の4つの力を総合的に発展させることを目的とした科目（外国語科目）、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目（情報倫理科目）において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。 Ⅲ. 学修方法 ●グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングをとおして、「聞く・話す・読む・書く」の4つの力を磨きます。 ●少人数制の演習をとおして、学びを深め、専門性を高めます。 ●問題関心や進路に応じた個別的指導をとおして、自身が選んだテーマで研究プロジェクトを推進し、学修の集大成としての研究報告論文（卒業論文）を執筆します。 Ⅳ. 評価方法 ●ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、各学科における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。 ●各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。 ●4年間の総括的な学修成果としての卒業論文の評価は、複数教員で行います。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html#policy https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02）
（概要） 人文学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。 【Ⅰ 知識・技能】 人文学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力を身につけている。 【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】 自身の考えを口頭または文章で的確に表現できる。 【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】 1. 文化、歴史、社会、および人間のあり方についての知的関心を持っている。 2. 自己や他者との対話をとおして成長していこうとする主体性と協調性を持っている。

学部等名 外国語学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規定・学則「南山大学の目的に関する規程」）
（概要） 外国語学部は、英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科という5学科を備え、各学科の専攻言語の習熟とともにそれらの言語が使われている地域についての体系的で包括的な知識を有し、今日のグローバルな社会において活躍できる人材の養成を主たる目的としている。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html#policy）

(概要) 外国語学部では、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（外国研究）の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 1. 世界の言語、文化、社会、歴史、政治、経済等についての幅広い知識 2. 現代社会が抱える様々な問題について、国際的かつ学際的な視点から理解する力 【Ⅱ 技能】 1. 外国語および日本語で情報を適切に収集し、自身の意見を明確に述べる力 2. 異なる背景を持つ他者との対話を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 1. 文化や社会の多様性を尊重する態度 2. 他者と協調的に対話を進める姿勢 【Ⅳ 総合力】 1. 世界の言語、文化、社会、歴史、政治、経済等についての学びをとおして得た多様な力を総合し、独自の思考を展開する力 2. 現代社会が抱える様々な問題を自ら発見し、それらの問題についての自身の見解を専門知に裏付けられた適切な言葉で表現する力 [共通教育科目] 【Ⅰ 知識・理解】 人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養 【Ⅱ 技能】 異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html#policy)
(概要) 外国語学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。 Ⅰ. 教育課程の構成 本学部の教育課程は、外国語教育と地域研究教育の2つを軸としつつ、英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科がそれぞれ提供する学科科目、国際的かつ学際的な学びを深める学部共通科目、更に、それらの基盤となる幅広い知識と教養を身につける共通教育科目から構成されます。 Ⅱ. 教育内容 【1. 学部共通科目および学科科目】 《4年間を通じて》 ●外国語教育と地域研究教育の2つを軸としたカリキュラムをとおして、学術的に洗練された外国語運用能力、人文学・社会科学的な思考力、的確な表現力を修得します。 《1年次以降》

- 外国語に関する科目をとおして、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、レポートの作成などを実践できるような高い外国語運用能力を身につけます。
- 多様な分野の専門科目をとおして、外国の言語、文化、社会、歴史、政治、経済などについての幅広い基礎知識を修得します。
- 学部共通科目をとおして、国際的かつ学際的な学びを深めます。

《2 年次以降》

- 多様な分野の専門科目をとおして、外国の言語、文化、社会、歴史、政治、経済などについての高度な専門知識を修得します。
- 上記の専門科目を日本語と専攻の言語で履修し、それぞれの言語の運用能力を高めます。
- 海外フィールドワークなどをとおして、異文化理解力、異文化適応力、異文化コミュニケーション力を養います。

《3 年次以降》

- 少人数制の演習（ゼミ）をとおして、専門分野の研究に取り組みます。
- 多様な分野の専門科目をとおして、外国の言語、文化、社会、歴史、政治、経済などについての理解を深め、思考力を養います。

《4 年次》

- 外国語学部での学修の集大成として、卒業論文を執筆します。自身で研究テーマを見つけ、問いを設定し、情報を集め、考え、その結果を論理的に記述します。

【2. 共通教育科目】

《4 年間を通じて》

- キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目（宗教科目、「人間の尊厳」科目等）において、人間と学問の在り方を考える力を養います。
- 文理融合を目的とした科目（基盤・学際科目、体育科目等）において、学際的な視野と総合的な判断能力を養います。
- 「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの力を総合的に発展させることを目的とした科目（外国語科目）、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目（情報倫理科目）において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。

Ⅲ. 学修方法

- カリキュラム全体を通じて、ディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングを実践することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる総合力を培います。
- 日本語と専攻の言語を自在に使いこなしながら専門的な学修に取り組むことで、それぞれの言語の運用能力を高めると同時に専門分野についての理解を深めます。
- 少人数制の演習をとおして、学びを深め、専門性を高めます。
- 問題関心に応じた個別的指導をとおして、自身が選んだテーマで研究プロジェクトを推進し、学修の集大成としての卒業論文を執筆します。

Ⅳ. 評価方法

- ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、各学科における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。
- 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

●4年間の総括的な学修成果としての卒業論文は、指導教員が厳正に評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html#policy https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02)
(概要) 外国語学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。 【Ⅰ 知識・技能】 1. 外国語学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力を身につけている。 2. 他者と意思疎通が可能なレベルの外国語運用能力を身につけている。 【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】 自身の考えを口頭または文章で的確に日本語および英語で表現できる。 【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】 1. 言語そのものや、各学科の対象地域の文化、社会、歴史、政治、経済などに強い興味と関心を持ち、様々な角度から学ぼうとする意欲を持っている。 2. 主体的に外国語を学ぶ姿勢を持っている。 3. 異文化を受け入れ、多様な人々と協働する姿勢を持っている。
学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規定・学則「南山大学の目的に関する規程」)
(概要) 経済学部は、本学の教育モットーである「人間の尊厳のために」の精神に基づいて普遍的な人間理解と寛容性の養成に役立つ教養教育を行うとともに、経済学の基礎の正確な修得の上に各専門分野における発展的知識・分析力の修得と応用能力の育成をめざした教育を行う。本 学部における教育を通して、国際化がすすむ現代社会において国際人としての自覚と幅広い教養の上に経済の専門的知識と応用能力を活かして積極的に活躍できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foe.html#policy)
(概要) 経済学部は、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（経済学）の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 1. 社会経済問題を分析するための基礎的な力 2. 理論分析、実証分析、歴史分析等、経済学の分析手法を活用し、様々な社会経済問題を理解する力 【Ⅱ 技能】 1. 資料調査、文献読解、文書作成を行う基礎的なアカデミック・スキル

2. 自身の考えを、客観的に裏付けられた情報や自己の分析により得られた科学的根拠に基づいて論理的に説明できる表現力
3. 他者との相互理解を促進するためのコミュニケーション能力

【Ⅲ 態度・志向性】

1. 社会経済分野について、結論に向かって多様な価値観を有する他者と議論し、協調・協同しながら課題に取り組む力
2. 「人間の尊厳のために」の教育モットーのもとで、社会経済分野に関して自ら課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む力

【Ⅳ 総合力】

1. 現実の社会経済問題を、経済学を中心に据えつつ柔軟で幅広い視点から分析・検討できる独自の思考力
2. 自ら発見した社会経済問題について、自身の見解を専門知識に裏付けられた適切な言葉で表現する力

〔共通教育科目〕

【Ⅰ 知識・理解】

人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養

【Ⅱ 技能】

異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力

【Ⅲ 態度・志向性】

多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foe.html#policy>)

(概要)

経済学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。

Ⅰ. 教育課程の構成

本学部の教育課程は、経済の専門的知識、応用能力および社会や組織で求められる力を身につけるために必要な学科科目と、それらの基盤となる幅広い知識と教養を身につけるために必要な共通教育科目から構成されます。

Ⅱ. 教育内容

【1. 学科科目】

《4年間を通じて》

- 複雑な経済現象を解き明かす学問である経済学は、その注目する対象や目的の違いから、大きく「理論経済」、「経済政策」、「経済史・経済思想」の3つに分かれます。さらに現代社会では、それら3つの領域とともに、各々についての「国際」的なアプローチも不可欠であるため、本学部では専門科目を、これを加えた4つの領域の各々に対応させた「4領域」に区分します。そして、これら「4領域の専門科目」を中心としたカリキュラムをとおして、経済の専門知識、応用能力、および社会や組織で求められる力を体系的に身につけます。
- 経済の基礎や経済分析の手法を修得する基礎科目、経済の専門的知識やスキルを身につける、「経済分析の方法」に関わる科目、「政策」の在り方を考える科目、「国際」的な視点で経済を見る科目、「歴史と思想」といった長期的観点から現在の経済社会を考える科目の4領域からなる専攻分野科目、国際社会に対応するための実践的な力を身につける経済外国語科目や社会人基礎力科目、経済学を超えた幅広い専門的知識を身につける関

連分野科目、そして学生それぞれが選択した分野に係る課題の探究を深める演習科目を体系的に学ぶことにより、社会で幅広く活躍する力を身につけます。

《1 年次》

- 基礎科目や専攻分野科目の入門科目において、経済学の基礎理論、経済学の理解に必要な数学的知識、統計的資料の基本的取扱いを身につけます。
- 演習科目において、討論、プレゼンテーション、レポート作成に必要なアカデミック・スキルを身につけます。

《2 年次》

- 専攻分野科目において、経済学を中心とした社会科学のより専門的な学びを深めます。

《3 年次》

- 引き続き、専攻分野科目において、経済学を中心とした社会科学のより専門的な学びを深めます。
- 社会人基礎力科目や関連分野科目において、社会や組織で求められる力を養います。
- 専門演習において、自身が選択した分野に係る課題についてゼミナールのメンバーと分析・検討を進めます。

《4 年次》

- 専門演習において、自身が設定した研究テーマに基づいて分析・検討を進め、卒業論文を執筆することで自身の見解を表現します。

【2. 共通教育科目】

《4 年間を通じて》

- キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目（宗教科目、「人間の尊厳」科目等）において、人間と学問の在り方を考える力を養います。
- 文理融合を目的とした科目（基盤・学際科目、体育科目等）において、学際的な視野と総合的な判断能力を養います。
- 「聞く・話す・読む・書く」の4つの力を総合的に発展させることを目的とした科目（外国語科目）、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目（情報倫理科目）において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。

Ⅲ. 学修方法

- カリキュラム全体を通じて、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングを実践することで、論理的思考力やコミュニケーション能力を培います。
- 少人数制の演習をとおして、学びを深め、専門性を高めます。
- 問題関心や進路に応じた個別的指導をとおして、自身が選んだテーマで研究プロジェクトを推進し、学修の集大成としての卒業論文を執筆します。

Ⅳ. 評価方法

- ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、本学科における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。
- 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。
- 4 年間の総括的な学修成果としての卒業論文の評価は、指導教員がルーブリック等に基づいて行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foe.html#policy https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02)
(概要) 経済学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。 【Ⅰ 知識・技能】 経済学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力（特に、外国語、国語、数学、歴史に関する知識・技能）を身につけている。 【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】 自身の考えを口頭または文章で的確に表現できる。 【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】 社会・経済に強い関心を有し、経済学部で学ぶ知的総合力を活かして社会に貢献する意欲を持っている。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規定・学則「南山大学の目的に関する規程」）
(概要) 経営学部は、現代経営学における基本的領域を広範に学んだ上で、経営倫理ならびに社会的責任を全うすることができ、本学の教育のモットーである「人間の尊厳のために」を体現した学生を養成することを目的とする。また、このような人材を国際社会および地域社会の発展に寄与するために世に送り出すことを社会的使命とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fob.html#policy)
(概要) 経営学部は、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（経営学）の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 1. 組織論、財務論、マーケティング論、会計学に関する基本的知識 2. 経営学に関する幅広い教養と専門的知識 3. 社会において組織体がどのように構成され、どのような機能を果たしているのかを理解する力 【Ⅱ 技能】 1. 情報を分析し、活用する技能 2. 広い視野から社会現象を捉える発想や思考の枠組みを活用する力 3. 経営課題について議論できるビジネス・コミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 1. 自身の判断において地球規模と地域の双方の視点に立って社会的責任を全うする力 2. 企業経営における倫理観 3. 経営にかかわる問題点を発見する力 【Ⅳ 総合力】

1. 組織運営のための効率的な経営方策を考える力 2. 経営分野に関して、学修で身につけた能力を活用し、課題に向けて独自の思考でもって対処する力 3. 的確な経営判断を下す力 〔共通教育科目〕 【Ⅰ 知識・理解】 人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養 【Ⅱ 技能】 異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fob.html#policy)
(概要) 経営学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。 Ⅰ. 教育課程の構成 本学部の教育課程は、経営学およびその関連領域における専門的な知識とビジネススキルを身につけるために必要な科目を配置した学科科目と、それらの基盤となる幅広い知識と教養を身につけるために必要な共通教育科目から構成されます。 Ⅱ. 教育内容 【1. 学科科目】 《4年間を通じて》 ●現代社会における経営活動は、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つのコアとなる基本的な要素から捉えることができます。更に、国際化・高度情報化が進む現代のビジネス社会では、「ビジネス英語」「簿記」「情報・解析」という3つのスキルを身につけることが求められています。そのため、本学部では、4コア・3スキルを学びの柱とした科目をとおして、国内外を問わず、様々なビジネスシーンに対応し得る多様な専門知識と実践的なスキルを身につけ、問題の本質を捉え解決に導く力を培います。 ●複雑化しているビジネスの諸問題について解決策を経営的観点から検討する力を身につける演習科目、経営学の内容とその考え方を学ぶための基礎となる基本科目、経営活動のコアとなる基本要素に関わる専門領域について学びを深めるコア科目、グローバルビジネスの現場に必要な実務能力やコミュニケーション能力を身につけるためのスキル科目、企業経営の第一線で活躍しているビジネスパーソンから最先端のビジネス現場について学ぶための総合経営科目のすべての中から、自身の将来の進路に応じて必要となる科目を履修し、各進路に必要な力を体系的に過不足なく身につけます。 《1年次》 ●演習科目において、ビジネス・コミュニケーション能力を培うとともに、討論、プレゼンテーション、レポート作成などに必要なアカデミックスキルを身につけます。 ●基本科目において、経営学の基礎的な理論や方法論を学ぶとともに、経営的な視点や考え方を身につけます。 ●スキル科目において、1年次から2年次にかけて、数学や統計、情報処理などを学び、情報を分析し、経営実務で活用するスキルを身につけます。 《2年次以降》

- 2年次以降から履修できるコア科目において、自身が選択した分野について、応用的かつ発展的知識を学びます。
- 演習科目でのゼミ選択の前段階であるプレゼミにおいて、学生自身が興味のある学科科目を履修し、3年次以降に開始する演習に向けて学びを深めます。
- スキル科目において、主に「簿記」、「情報・解析」関連の科目群から様々な学科科目を履修し、ビジネスシーンで必要となる実践的な知識やスキルを身につけます。
- 総合経営科目において、現代産業論などの実務経験豊かな専門家による講義などを受講し、最先端の専門知識を学びます。
- 関連科目において、民法や商法などの経営にかかわる法律を学び、幅広い教養と知識を身につけます。

《3年次》

- 演習科目において、少人数の演習で個々の興味関心のある専門領域を確立して研究を行うことにより、自ら問題点を発見し情報収集・分析する力を身につけます。
- コア科目において、経営活動の4つのコアに関わるさらに専門的な科目を履修し、学びを深めます。
- スキル科目において、主に「ビジネス英語」関連の科目群から学科科目を履修し、語学としての英語ではなく、英語を使って経営学の最新理論やビジネス事情を学びます。

《4年次》

- 演習科目において、主体的に研究に取り組む力を培い、卒業論文を執筆します。

【2. 共通教育科目】

《4年間を通じて》

- キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目（宗教科目、「人間の尊厳」科目等）において、人間と学問の在り方を考える力を養います。
- 文理融合を目的とした科目（基盤・学際科目、体育科目等）において、学際的な視野と総合的な判断能力を養います。
- 「聞く・話す・読む・書く」の4つの力を総合的に発展させることを目的とした科目（外国語科目）、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目（情報倫理科目）において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。

Ⅲ. 学修方法

- グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングをとおして、「聞く・話す・読む・書く」の4つの力を磨きます。
- 少人数制の演習をとおして、学びを深め、専門性を高めます。
- 問題関心や進路に応じた個別的指導をとおして、自身が選んだテーマで研究プロジェクトを推進し、学修の集大成としての卒業論文を執筆します。

Ⅳ. 評価方法

- ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、本学科における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。
- 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。
- 4年間の総括的な学修成果としての卒業論文の評価は、指導教員が行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fob.html#policy>
<https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02>）

(概要) 経営学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。 【Ⅰ 知識・技能】 経営学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力を身につけている。 【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】 自身の考えを口頭または文章で的確に表現できる。 【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】 1. 経営学領域の実践的な学習・研究・諸活動の積み重ねを通じて、日本の将来を開くビジネス・パーソンを目指す意欲を持っている。 2. 産業界で活躍するために国家資格の取得をはじめとした必要な高度専門技能の修得を通じて、ビジネス界で即戦力として活躍する意欲を持っている。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/規定・学則「南山大学の目的に関する規程」）
(概要) 法学部は、キリスト教世界観に基づく建学の精神に立脚して人間性の涵養につとめるとともに、広い教養と関連諸科学の理解に基礎づけられた法的思考の育成を目標とし、法を中心とした社会的諸現象の体系的研究と実践的教育を実施して、法の基礎的理論と応用に通ずる人材を養成し、これに期待する地域社会の強い要請にこたえ、もってわが国の文化の進展と福祉に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foj.html#policy）
(概要) 法学部は、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（法学）の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 1. 各法分野における法の内容と、その基礎にある考え方や原理・原則に関する専門的知識 2. 国際社会および現代社会において、法がどのような意義を有し、役割を果たしているかを理解する力 【Ⅱ 技能】 文献・資料を調査し、その内容を踏まえて論理的かつ説得的に論述・議論する力 【Ⅲ 態度・志向性】 1. 国際社会および現代社会における権利の重要性や価値観の多様性を理解し、尊重する力 2. 自己形成や問題解決を図るために、主体的かつ積極的に行動する力 【Ⅳ 総合力】 社会における諸問題の解決に向けて、多様な専門的知識と力を総合し、法的に検討する力 [共通教育科目] 【Ⅰ 知識・理解】

人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養 【Ⅱ 技能】 異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foj.html#policy)
(概要) 法学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。 Ⅰ. 教育課程の構成 本学部の教育課程は、法律学およびその関連領域における専門的な知識と力を身につけるために必要な複数の科目群を配置した学科科目と、それらの基盤となる幅広い知識と教養を身につけるために必要な共通教育科目から構成されます。 Ⅱ. 教育内容 【1. 学科科目】 《4年間を通じて》 ●法律学で学ぶべき専門領域を網羅した複数の科目群をととして、社会における諸問題について、その解決に向けて多様な専門的知識と力を総合し、法的に検討することができる力を身につけます。 ●法の内容とその考え方を学ぶための基本となる科目群（公法系科目群、民事法系科目群、刑事法系科目群）、社会における法の意義と役割を学ぶための科目群（展開・先端系科目群、基礎法学・隣接系科目群、政治経済系科目群）、社会における諸問題の解決に向けて法的に検討する力を身につけるための科目群（演習系科目群、司法特修コース系科目群）、権利の重要性や価値観の多様性を理解し尊重した上で主体的かつ積極的に行動する力を身につけるための科目群（キャリア教育系科目群、国際系科目群）のすべての中から、自身の将来の進路に応じて必要となる科目を履修し、各進路に必要な力を体系的に身につけます。 ●自身の将来の進路として、民間企業への就職、中学・高校の教員、警察官・消防官を目指す場合は「法学一般コース」を、国家機関・地方自治体などの公務員や司法書士・税理士などの法律隣接職を目指す場合は「法律専修コース」を、裁判官・検察官・弁護士の法曹三者を目指す場合は「司法特修コース」を選択し、各コースに求められる科目をととして、自身の将来の進路に必要な力を体系的に身につけます。 《1年次》 ●公法系科目、民事法系科目、刑事法系科目の一部において、法学の基礎を学びます。 ●キャリア教育系科目において、大学における学習の基礎や大学生活における注意事項などを学びます。 ●演習系科目において、少人数教育の中で様々な問題について資料を読み、その内容を理解し、他者に正確に伝え議論を重ねることにより、主体的な学習能力と実践的な問題解決能力を身につけます。 ●2年次進級時に、「法学一般コース」「法律専修コース」「司法特修コース」の中から1つ選択します。 《2年次以降》 ●各コースにおける学びの体系に基づいて、各科目群の中から様々な学科科目を履修し、学びを深めます。

- 「法学一般コース」では、学科科目全般を学び、広い知識と視野を身につけます。
- 「法律専修コース」では、公法系科目、民事法系科目、刑事法系科目を中心に学び、各種試験に合格する力を身につけます。
- 「司法特修コース」では、公法系科目、民事法系科目、刑事法系科目、展開・先端科目を中心に、司法特修科目を学び、法科大学院進学と司法試験合格を目指す基礎的な力を身につけます。
- キャリア教育系科目において、大学における学修成果を将来の進路へ活かすための計画と実践の方法を学びます。
- 国際系科目において、海外の法制度について学び、実際に現地でその運用体制や文化に触れることなどにより、国際社会における日本の法制度の現状と課題を学びます。
- 演習系科目において、社会における諸問題の解決に向けて、文献・資料の調査内容に基づき論理的かつ説得的に意見を述べ、他者の意見も尊重しながら議論を重ねることにより、法的に検討する力を身につけます。
- 「司法特修コース」を選択した学生は、所定の要件を充足し、必要な手続をとった上で、3年次終了時に南山大学大学院法務研究科に進学することができる制度（早期卒業制度）を利用することができます。

【2. 共通教育科目】

《4年間を通じて》

- キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目（宗教科目、「人間の尊厳」科目等）において、人間と学問の在り方を考える力を養います。
- 文理融合を目的とした科目（基盤・学際科目、体育科目等）において、学際的な視野と総合的な判断能力を養います。
- 「聞く・話す・読む・書く」の4つの力を総合的に発展させることを目的とした科目（外国語科目）、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目（情報倫理科目）において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。

Ⅲ. 学修方法

- グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングをとおして、「聞く・話す・読む・書く」の4つの力を磨きます。
- 1年次から4年次まで設置されている少人数制の演習をとおして、学びを深め、専門性を高めます。

Ⅳ. 評価方法

- ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、各コースにおける卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。
- 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foj.html#policy>

<https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02>）

（概要）

法学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。

【Ⅰ 知識・技能】

法学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力を身につけている。

【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】 自身の考えを口頭または文章で的確に表現できる。 【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】 1. 物事をじっくりと論理的に考え、かつ、人権や市民性といった諸価値を深く理解して、国内外の社会の様々な問題について様々な角度から把握・分析を行う意欲を持っている。 2. 法律をはじめ、政治や経済など関連する社会科学の分野に関心を有し、法曹等の法律の専門職も視野に入れて国内外の社会で活躍する意欲を持っている。
学部等名 総合政策学部 教育研究上の目的（公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規定・学則「南山大学の目的に関する規程」） （概要） 総合政策学部は南山大学の建学の理念であるキリスト教精神と、その教育モットーである「人間の尊厳のために」という原則に従い、グローバルな文明論的視点に立つ豊かな人文主義的教養と幅広い歴史認識に基づき、国家や諸組織や諸個人がこれから遭遇する未知の問題の本質をいち早く見抜く能力を備えるとともに、総合的かつ緻密な状況分析に基づく迅速な意思決定と実現可能な政策立案に基づく実践的な行動をとることができるような自立精神と感受性に富む人材の養成を目的とし、それを支援するような教育と研究を行う。 卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fop.html#policy） （概要） 総合政策学部は、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（総合政策学）の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 1. 現代社会の問題に向き合うために必要となる学際的な基礎知識 2. 公共政策、国際政策、環境政策に関する専門知識 3. 複雑な現代社会を文明論の観点から理解する力 【Ⅱ 技能】 1. 複合的な問題の諸要因を科学的に分析・整理する力 2. 複合的な問題について、幅広い学問分野に基づき、様々な立場から考え、論理的に説明する力 3. 知識や価値観を必ずしも共有していない他者と、日本語や外国語を用いて相互理解し、対話する力 【Ⅲ 態度・志向性】 1. 相異なる価値観を尊重し、主体的にコミュニケーションを図る力 2. 人間の尊厳という基本的価値に基づき、複数の異なる学問分野を総合し、政策を検討する姿勢 【Ⅳ 総合力】 1. 総合的な問題の解決への糸口や手がかりを発見する力 2. 問題解決のために多様な人々をつなぎ、協働する実践力 3. 総合性と専門性を融合させ、諸問題の解決策を立案する力 4. 現代社会の問題の解決をととして、持続可能な社会の実現に貢献する力

〔共通教育科目〕 【Ⅰ 知識・理解】 人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養 【Ⅱ 技能】 異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fop.html#policy)
(概要) 総合政策学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。 Ⅰ. 教育課程の構成 本学部の教育課程は、社会問題を解決に導くための政策立案およびその関連領域における専門的な知識と力を身につけるために必要な科目を配置した学科科目と、それらの基盤となる幅広い知識と教養を身につけるために必要な共通教育科目から構成されます。 Ⅱ. 教育内容 【1. 学科科目】 《4年間を通じて》 ●本学部では、文明の成り立ちや構造をひもとく「文明論」を学びの基礎として、現代社会が抱える複雑多様化した諸問題に対し、要因を的確に把握する多面的な視点と実践力を身につけ、解決に寄与する政策を提言する力を修得します。 ●政策立案に繋がる専門性を高めるために、アジアを中心とする地域が抱える問題や、国際関係に焦点を合わせた「国際政策コース」、国や地方自治体、企業、地域のコミュニティなどの組織とその活動が直面する問題に焦点を合わせた「公共政策コース」、エネルギー政策や地球温暖化からごみ問題まで、現代社会が直面する問題に焦点を合わせた「環境政策コース」の3つのコースに対応する形で開講される多様なコース科目を中心に、各課題の解決に必要な知識を学びます。 ●コース科目に加えて、政策立案をするために必要な基礎知識や考え方を学ぶための政策論基礎科目、国内外でのフィールドワークや研修をととして社会課題の解決に必要な調査・分析方法や多様な人々と協働する力を身につけるための方法論科目、自律的に課題を探究し、政策を提言する力を身につける演習科目を体系的に学ぶことにより、社会で幅広く活躍する力を身につけます。 ●主にアジアの国と地域からの留学生は、日常的な国際交流と異文化理解が可能となる環境のもとに学び、学科科目を理解できる日本語力を習得しつつ、上述の4年間を通じた学びを経て各々の知識や力を身につけます。 《1年次》 ●文明論科目において、文明の成り立ちや構造を学びます。 ●政策論基礎科目において、政策立案の基礎として学ぶべき学問領域の知識を修得するとともに、複眼的視点を養います。 ●演習科目において、大学での学修に必要となる基礎的技法と素養を身につけます。 ●方法論科目において、政策立案に必要となる国内外の現場の経験について学びます。 ●留学生は入学前までの日本語習得レベルに応じ特別な日本語プログラムを履修し、学科科目を理解できるレベルの日本語力を養います。 《2年次》

- 方法論科目において、政策立案に必要な調査・分析方法を身につけます。
- 国際政策、公共政策、環境政策の各コース科目を幅広く学びながら、複数の領域にまたがる分野に対する知識・理解を深めます。
- 留学生は日本語科目を履修しつつ、上述の学科科目も学びます。

《3 年次》

- 国際政策、公共政策、環境政策の 3 コースから 1 コースを選択し、各コースに指定されたコース科目を中心に、政策に繋がる専門性に特化した知識を身につけます。
- 方法論科目において、更なる高度な政策立案に必要なスキルを修得します。
- 演習科目において、自身が具体的な政策課題を選び、課題への理解を深めながら、課題解決のために必要な知識・理論・手法を学びます。
- 留学生も日本語科目を履修しない学生と同様、学科科目を中心とした学びを進めます。

《4 年次》

- 演習科目において、自身が立てた具体的な政策課題について卒業論文を執筆します。

【2. 共通教育科目】

《4 年間を通じて》

- キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目（宗教科目、「人間の尊厳」科目等）において、人間と学問の在り方を考える力を養います。
- 文理融合を目的とした科目（基盤・学際科目、体育科目等）において、学際的な視野と総合的な判断能力を養います。
- 「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの力を総合的に発展させることを目的とした科目（外国語科目）、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目（情報倫理科目）において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。

Ⅲ. 学修方法

- カリキュラム全体を通じて、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングを実践することで、「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの力を磨きます。
- 演習形態の授業では、少人数制を前提とし、コミュニケーション能力を高めながら、より専門性の高い学修を進めます。
- 国内外のフィールドワークなどの体験型のプログラムをとおして、現地の社会に触れて学び、また、政策現場で活躍している人を講師として迎えて、実践からの知識やスキルを学びます。
- 学修の集大成である卒業論文の執筆にあたっては、自身が選んだテーマで指導教員の個別的指導を受けながら、ゼミナールのメンバーと協働することで、主体的に研究プロジェクトを推進します。

Ⅳ. 評価方法

- ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、本学科における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。
- 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。
- 4 年間の総括的な学修成果としての卒業論文の評価は、指導教員が学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づくルーブリックを用いて行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fop.html#policy>
<https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02>）

(概要) 総合政策学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。 【Ⅰ 知識・技能】 総合政策学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力（読解力、語学力など）を身につけている。 【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】 自身の考えを口頭または文章で的確に表現できる。 【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】 1. 地域固有の歴史や文化、さらには、国際関係、政治や経済、環境問題などの現代社会の諸問題に興味や関心があり、多様な価値観を理解する意欲を持っている。 2. 机上の学習のみならず、フィールドに出て自らの目で見て学んだり、いろいろな国や地域の人々と積極的にコミュニケーションを取ったりすることで世界に関わる意欲を持っている。
--

学部等名 理工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規定・学則「南山大学の目的に関する規程」）
(概要) 理工学部では、幅広い教養を学び、理学(数学・物理学・情報科学)の基礎の上に、所属学科の専門領域を主専門領域とし、所属学科のほかに1学科の領域を副専門領域として、その知識と技術を修得する。技術の普遍性と多様性を理解することで、産業構造の変化に伴い変容する技術を柔軟に適用(修得・応用)すること、機能および非機能の実現に必要な複数領域の技術を統合すること、多様な技術を創造的に組み合わせ新たな価値を持つ技術とすること、さらに、これらをグローバル化する情報化社会の中で実践していくことができる人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fot.html#policy)
(概要) 理工学部は、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（理工学）の学位を授与します。 【Ⅰ 知識・理解】 1. 技術の基盤となる理学（数学、物理学、情報科学）の基礎知識 2. 主専攻および副専攻の専門領域に関する知識・理解 【Ⅱ 技能】 1. 技術的課題を解決するために必要な、文献調査、プログラミング、実験の計画と評価等の能力 2. 技術的課題について他者と議論し、自身の考えを文書作成やプレゼンテーション等で表現する技術コミュニケーション能力 3. 主専攻および副専攻の専門領域に関する技術 【Ⅲ 態度・志向性】 1. 技術者に求められる行動規範を理解し、その実践を通じ、人間の尊厳を尊重する態度 2. 課題解決のために、複数の専門領域の知識や技術を統合し、専門が異なる他者と協

力・協働する姿勢

【IV 総合力】

技術的課題を発見し、計画的に研究を行い、修得した能力を組み合わせで解決を目指す力

〔共通教育科目〕

【Ⅰ 知識・理解】

人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養

【Ⅱ 技能】

異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力

【Ⅲ 態度・志向性】

多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fot.html#policy>)

(概要)

理工学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。

Ⅰ. 教育課程の構成

本学部の教育課程は、理学的素養を涵養するとともに、技術的課題解決のための基礎技術を養う学部共通科目および学科の数学科目と、ソフトウェア工学科、データサイエンス学科、電子情報工学科、機械システム工学科それぞれの専門領域の知識と技術を教授する学科科目、それらの基盤となる幅広い知識と教養を身につけるために必要な共通教育科目から構成されます。

Ⅱ. 教育内容

【1. 学部共通科目および学科科目】

《4年間を通じて》

●数学、情報科学、物理学の理学的素養を基盤として、主専攻および副専攻の専門領域に関する知識と技術を身につけます。

●主専攻および副専攻の知識と技術を統合し、専門が異なる他者と協力・協働する姿勢を身につけます。

●技術的課題を発見し、計画的に研究を行い、修得した能力を組み合わせで解決を目指す力を身につけます。

《1年次以降》

●数学、情報科学に関する科目をとおして、技術の基盤となる理学の基礎知識を修得します。

●理工学概論をとおして、主専攻の専門領域の基礎知識や、技術者の行動規範を実践して人間の尊厳を尊重する態度を身につけます。

●理工学基礎演習をとおして、コンピュータを使う基礎技術や、技術的文書を作成する技術を身につけます。

《2年次以降》

●数学、物理学、統計学、通信ネットワークに関する科目をとおして、技術の基盤となる理学の基礎知識を修得します。

●主専攻および副専攻の学科科目をとおして、それぞれの専門領域に関する知識と技術を修得します。

●専門プログラミング科目をとおして、技術的課題解決のための専門技術を修得します。

《3 年次以降》

- 少人数制の演習科目において、文献調査、プログラミング、実験の計画と評価等の能力や、文書作成、プレゼンテーション等の技術コミュニケーション能力を身につけます。
- PBL 実践演習をととして、複数の専門領域の知識や技術を統合し、他者と協力・協働して課題を解決する力を養います。

《4 年次》

- 理工学部での学修の集大成として卒業研究に取り組みます。技術的課題を発見し、計画的に研究を行い、修得した能力を組み合わせで解決を目指し、以上の結果を卒業論文として執筆します。

【2. 共通教育科目】

《4 年間を通じて》

- キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目（宗教科目、「人間の尊厳」科目等）において、人間と学問の在り方を考える力を養います。
- 文理融合を目的とした科目（基盤・学際科目、体育科目等）において、学際的な視野と総合的な判断能力を養います。
- 「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの力を総合的に発展させることを目的とした科目（外国語科目）、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目（情報倫理科目）において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。

Ⅲ. 学修方法

- カリキュラム全体を通じて、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングを実践することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる総合力を培います。
- 講義と演習を適切に組み合わせることにより、効果的に知識を修得し、応用力を強化します。
- チームを編成して実践的なプロジェクトに取り組むことにより、他者と協力・協働して問題を解決する力を養います。
- 少人数制の演習・卒業研究をととして、専門性の高い実践的な技術を学びます。
- 主専攻と副専攻の学際領域における問題解決等をテーマにして卒業研究に取り組みます。その成果を卒業論文として執筆し、卒業研究発表会で発表します。

Ⅳ. 評価方法

- ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、各学科における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。
- 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。
- 4 年間の総括的な学修成果としての卒業研究の評価は、複数教員で行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fot.html#policy>

<https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02>)

（概要）

理工学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。

【Ⅰ 知識・技能】

理工学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力（特に、理科、数学に

関する知識・技能)を身につけている。

【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】

自身の考えを口頭または文章で的確に表現できる。

【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】

1. コンピュータ、機械、通信などの技術に強い関心を持ち、それらを主体的に学ぼうとする意欲を持っている。
2. 他者との対話をとおして学び、成長しようとする主体性と協調性を持っている。
3. 理工学部での学びを発展的に活かして社会に貢献する意欲を持っている。

学部等名 国際教養学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/>
規定・学則「南山大学の目的に関する規程」）

（概要）

国際教養学部は、21世紀の情報・知識基盤社会で活躍するための批判的思考・情報リテラシー等のスキルならびに他者との相互理解を促進するためのコミュニケーション能力育成を基盤としつつ、文化・制度の垣根や境界を乗り越えて異なるイデオロギーや価値観を尊重し、将来に向けて持続可能な世界とするために積極的に活動できるような人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fog.html#policy>）

（概要）

国際教養学部は、南山大学が定める修業年限以上在学して所定の単位を修得し、次の力を身につけたと認められる者に対して、卒業の認定を行い、学士（国際教養学）の学位を授与します。

【Ⅰ 知識・理解】

1. 幅広い学問分野についての基礎的な知識を持つとともに、自身が選んだ学問分野の知識をより深め、かつ広く応用する力
2. 現代の諸問題をグローバルな視点とローカルな視点から理解する力

【Ⅱ 技能】

1. 資料調査、文献読解、文書作成等のアカデミック・スキル
2. 他者との相互理解を促進するための外国語を含むコミュニケーション能力

【Ⅲ 態度・志向性】

多様な価値観を尊重する共生社会の実現に取り組む姿勢を持ち、人間の尊厳を尊重しつつ共生社会の発展に向けて主体的に行動する力

【Ⅳ 総合力】

1. 現在の社会が直面している課題に対して、教養と知識を用いて解決する力
2. 社会の現状を批判的に分析してその諸課題を発見するとともに、持続可能かつ公正な社会のあり方について創造的な構想を描き、その実現に向けて論理を構築し、自身の構想を発信する力

〔共通教育科目〕

【Ⅰ 知識・理解】

人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養

【Ⅱ 技能】 異なる背景を持つ人々との共生・協働を可能にするコミュニケーション能力 【Ⅲ 態度・志向性】 多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fog.html#policy)
(概要) 国際教養学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得のために、以下の構成、教育内容、学修方法および評価方法に基づいて教育課程を編成、実施します。 I. 教育課程の構成 本学部の教育課程は、国際社会の諸問題を地球規模の視点から解決する力を養うための学科科目と、それらの基盤となる幅広い知識と教養を身につけるために必要な共通教育科目から構成されます。 II. 教育内容 【1. 学科科目】 《4年間を通じて》 ●国境や文化的な垣根を乗り越える視野を獲得し、持続可能な社会の在り方を探究するため、幅広い学問分野を横断するグローバル・スタディーズ科目とサステナビリティ・スタディーズ科目を柱としたカリキュラムをとおり、幅広く奥行きのある教養を身につけます。 ●世界の諸問題にアプローチするための外国語運用能力を含む知識や方法を身につける国際教養学基礎科目、特定の国や地域を超えたグローバルな視点から現代社会を捉え直すグローバル・スタディーズ科目、世界各地で生起する問題を解決し持続可能な社会の実現に向けた方策を探究するサステナビリティ・スタディーズ科目、複眼的な思考を身につけるために学部を超えて関連する科目を履修するインターファカルティ科目、世界の諸問題の解決に向けて主体的に行動する力を身につけるための実践知形成科目、そして学生それぞれの関心に応じて設定した課題を調査・分析する演習科目を体系的に学ぶことにより、社会で幅広く活躍する力を身につけます。 《1年次・2年次》 ●国際教養学基礎科目において、アカデミック・スキルの修得、教養を備えた市民に必要な素養、広範な学問分野の基礎知識を涵養します。 ●同じく国際教養学基礎科目において、他者との相互理解・交渉に必要とされる外国語によるコミュニケーション能力を養い、複言語主義に基づく三言語（日本語、英語、第二外国語）を運用できる能力を育成します。 《2年次》 ●実践知形成科目の短期海外プログラムにおいて、海外の大学でサステナビリティについて専門的に学び、世界の諸課題の解決策を高度な英語運用能力を用いて考案する能力を身につけます。 ●演習科目では、基礎演習において、1年次に修得したアカデミック・スキルを用い、地域社会の課題やグローバルな課題について研究する力を身につけ、また、PBL 演習において、実践的な取り組みをとおり課題を解決する能力を養います。 《3年次》 ●グローバル・スタディーズ科目において、文化、言語、民族、宗教、国際関係、メディア、情報技術などの学問分野を専門的に学び、今日のグローバル社会を理解するための多

角的な視点を涵養します。

●サステナビリティ・スタディーズ科目において、倫理、民族、文化、生態系、国際経済、開発などの学問分野を専門的に学び、持続可能な社会を構想し実現するための能力を身につけます。

●インターファカルティ科目において、外国語学部と総合政策学部の科目を領域横断的に履修することで、世界の様々な国・地域および様々な学問分野を専門的に学び、グローバル・スタディーズ科目とサステナビリティ・スタディーズ科目で身につけた知識と技能を深めます。

●実践知形成科目の GLS フィールドワークにおいて、英語圏および英語圏以外の大学・教育機関で研修を受けた上で、現地の企業や NPO で実地体験を積み、世界の様々な地域で問題解決に取り組むことのできる能力を育成します。

《3 年次・4 年次》

●演習科目において、グローバル社会の諸問題の解決や持続可能な社会の実現を目指して、自身の関心に応じたテーマを自ら設定し、指導教員の指導の下で卒業論文を執筆し、総合的に学修を完成します。

【2. 共通教育科目】

《4 年間を通じて》

●キリスト教世界観に基づく教育という建学の理念の基軸となる本学の教育モットー人間の尊厳のために (Hominis Dignitati) の意味を様々な視点から考えることを目的とした科目(宗教科目、「人間の尊厳」科目等)において、人間と学問の在り方を考える力を養います。

●文理融合を目的とした科目(基盤・学際科目、体育科目等)において、学際的な視野と総合的な判断能力を養います。

●「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの力を総合的に発展させることを目的とした科目(外国語科目)、および、コンピュータに関する基礎知識とそれを活用する技術を身につけることを目的とした科目(情報倫理科目)において、国際化・情報化時代を生きるための基本的なコミュニケーション能力を養います。

Ⅲ. 学修方法

●カリキュラム全体を通じて、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に活用したアクティブ・ラーニングを実践することで、各専門分野について主体的かつ対話的に学ぶ力を磨きます。

●少人数制の演習をとおして、学びを深め、専門性を高めます。

●国内や海外でのフィールドワークをとおして、現地の社会に触れて学び、実践からの知識やスキルを学びます。

●問題関心や進路に応じた個別的指導をとおして、自身が選んだテーマで研究プロジェクトを推進し、学修の集大成としての卒業論文を執筆します。

Ⅳ. 評価方法

●ディプロマ・ポリシーに掲げる力の修得は、本学科における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し、評価します。

●各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

●4 年間の総括的な学修成果としての卒業論文の評価は、複数教員で行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: <https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fog.html#policy>)

<https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/download.html#link02>)

(概要)

国際教養学部は、教育の目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような人を受け入れます。

【Ⅰ 知識・技能】

国際教養学部で学ぶために十分な、高等学校卒業レベル以上の基礎学力（特に、外国語、国語、歴史、数学に関する知識）を身につけている。

【Ⅱ 思考力・判断力・表現力】

自身の考えを口頭または文章で的確に日本語および英語で表現できる。

【Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度】

1. 現代社会の諸問題を理解するために必要な幅広い教養と深い専門知識を身につけ、さらに、コミュニケーション能力や異文化理解力を高める意欲を持っている。
2. 国・地域の枠を超えた多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル社会で生起する問題を解決するなど、グローバル社会の持続可能な発展に寄与したいという展望を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

学部・学科 <https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/>

大学院 <https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/>

研究所・研究センター <https://rci.nanzan-u.ac.jp/rc-ri/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	5 人	－					5 人
人文学部	－	35 人	17 人	6 人	0 人	0 人	58 人
外国語学部	－	22 人	18 人	6 人	0 人	0 人	46 人
経済学部	－	17 人	6 人	2 人	0 人	0 人	25 人
経営学部	－	19 人	6 人	0 人	0 人	0 人	25 人
法学部	－	15 人	7 人	2 人	0 人	0 人	24 人
総合政策学部	－	20 人	4 人	1 人	0 人	0 人	25 人
理工学部	－	29 人	4 人	2 人	0 人	0 人	35 人
国際教養学部	－	12 人	7 人	2 人	0 人	0 人	21 人
教養学部（一般教育）	－	7 人	6 人	21 人	0 人	0 人	34 人
大学院	－	13 人	0 人	0 人	0 人	0 人	13 人
附置研究所	－	5 人	4 人	1 人	1 人	0 人	11 人
その他	－	4 人	1 人	12 人	4 人	0 人	21 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		434 人					434 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://porta.nanzan-u.ac.jp/research/html/home_ja.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	340 人	387 人	87.9%	1370 人	1499 人	109.4%	5 人	0 人
外国語学部	390 人	396 人	98.5%	1584 人	1681 人	106.1%	12 人	8 人
経済学部	275 人	292 人	94.2%	1100 人	1232 人	112.0%	0 人	0 人
経営学部	270 人	319 人	84.6%	1080 人	1215 人	112.5%	0 人	0 人
法学部	275 人	364 人	75.5%	1100 人	1248 人	113.5%	0 人	0 人
総合政策学部	275 人	292 人	94.2%	1120 人	1228 人	109.6%	10 人	8 人
理工学部	270 人	284 人	95.1%	1080 人	1118 人	103.5%	0 人	0 人
国際教養学部	150 人	165 人	90.9%	610 人	663 人	108.7%	5 人	2 人
合計	2245 人	2499 人	89.8%	9044 人	9884 人	109.3%	32 人	18 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	358 人 (100%)	10 人 (2.8%)	319 人 (89.1%)	29 人 (8.1%)
外国語学部	393 人 (100%)	11 人 (2.8%)	350 人 (89.1%)	32 人 (8.1%)
経済学部	254 人 (100%)	4 人 (1.6%)	238 人 (93.7%)	12 人 (4.7%)
経営学部	255 人 (100%)	2 人 (0.8%)	236 人 (92.5%)	17 人 (6.7%)
法学部	283 人 (100%)	11 人 (3.9%)	245 人 (86.6%)	27 人 (9.5%)
総合政策学部	247 人 (100%)	4 人 (1.6%)	224 人 (90.7%)	19 人 (7.7%)
理工学部	260 人 (100%)	41 人 (15.8%)	210 人 (80.8%)	9 人 (3.5%)
国際教養学部	144 人 (100%)	3 人 (2.1%)	130 人 (90.3%)	11 人 (7.6%)
合計	2194 人 (100%)	86 人 (3.9%)	1952 人 (89.0%)	156 人 (7.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	366 人 (100%)	323 人 (88.3%)	39 人 (10.7%)	4 人 (1.1%)	0 人 (%)
外国語学部	399 人 (100%)	300 人 (75.2%)	84 人 (21.1%)	15 人 (3.8%)	0 人 (%)
経済学部	279 人 (100%)	233 人 (83.5%)	32 人 (11.5%)	13 人 (4.7%)	0 人 (%)
経営学部	271 人 (100%)	231 人 (85.2%)	32 人 (11.8%)	8 人 (3.0%)	0 人 (%)
法学部	292 人 (100%)	252 人 (86.3%)	34 人 (11.6%)	6 人 (2.1%)	0 人 (%)
総合政策学部	248 人 (100%)	213 人 (85.9%)	27 人 (10.9%)	9 人 (3.6%)	0 人 (%)
理工学部	273 人 (100%)	226 人 (82.8%)	35 人 (12.8%)	12 人 (4.4%)	0 人 (%)
国際教養学部	147 人 (100%)	117 人 (79.6%)	27 人 (18.4%)	3 人 (2.0%)	0 人 (%)
合計	2,275 人 (100%)	1,895 人 (83.3%)	310 人 (13.6%)	70 人 (3.1%)	0 人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画（シラバス）記載項目の留意点および記載例を、各科目担当教員に配付し、コーディネータは、自身の担当するコーディネータ科目の全シラバスの内容確認を行う。なお、コーディネータは、単なる編集上の確認（記載内容の有無や語句修正等）だけでなく、カリキュラムポリシーに基づき確認を実施している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

南山大学授業科目履修規程にて、授業科目を履修した者に対しては、原則として試験の上、成績を判定し、単位を与えることを定めている。履修成績は、南山大学試験規程により実施される定期試験または追試験の成績と平常の成績を考慮して定めることとしている。

南山大学では、卒業の認定に関する方針および卒業要件（4年以上在学して学部学科所定の単位を修得）を満たす者について、学部教授会、大学評議会の審議を経て、学長が卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	キリスト教学科	128 単位	有	48 単位
	人類文化学科	128 単位	有	48 単位
	心理人間学科	128 単位	有	48 単位
	日本文化学科	128 単位	有	48 単位
外国語学部	英米学科	128 単位	有	44 単位

	スペイン・ラテンアメリカ学科	128 単位	有	44 単位
	フランス学科	128 単位	有	44 単位
	ドイツ学科	128 単位	有	44 単位
	アジア学科	128 単位	有	44 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有	48 単位
経営学部	経営学科	128 単位	有	44 単位
法学部	法律学科	132 単位	有	42 単位 (1, 2 年次) 44 単位 (3 年次以上)
総合政策学部	総合政策学科	128 単位	有	48 単位
理工学部	ソフトウェア工学科	125 単位	有	44 単位
	データサイエンス学科	125 単位	有	44 単位
	電子情報工学科	125 単位	有	44 単位
	機械システム工学科	125 単位	有	44 単位
	ソフトウェア工学科 (旧)	128 単位	有	48 単位
	システム数理学科	128 単位	有	48 単位
	機械電子制御工学科	128 単位	有	48 単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有	44 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/exam-grade/grade03.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :
 キャンパスマップ <https://www.nanzan-u.ac.jp/CMAP/nagoya/campus-nago.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記 載事項)
人文学部	キリスト教 学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
	人類文化学 科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
	心理人間学 科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
	日本文化学 科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
外国語学部	英米学科(1 ～2 年次)	750,000 円	250,000 円	258,000 円	教育充実費、 実習費
	英米学科(3 ～4 年次)	750,000 円	250,000 円	249,000 円	教育充実費、 実習費
	スペイン・ ラテンアメ リカ学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
	フランス学 科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
	ドイツ学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
	アジア学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
経済学部	経済学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
経営学部	経営学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
法学部	法律学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
総合政策学部	総合政策学 科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費
理工学部	ソフトウェ ア工学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
	データサイ エンス学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
	電子情報工 学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
	機械システ ム工学科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
国際教養学部	国際教養学 科 (1～4 年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 心身の健康への支援という面では、保健センター・学生相談室において学校医（精神科医/内科医）ならびに専門カウンセラー（公認心理師・臨床心理士）が学生の各種悩みに個別面談形式で対応している。 また、コミュニケーションの問題、あるいは、得意な領域と不得意な領域に差があり、困難を感じている学生など、修学面で困難を抱える学生一人ひとりの実情に対応した学習環境を整えるための相談窓口を保健センター・大学生活支援室に設け、支援している。それらの普段の支援に加え、保健センター主催で講演会等を開催している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりが希望する進路先に進むことができること、大学の授業や大学生活全般を通じて自立した社会人に成長させることを基本方針とする。キャリアサポート、インターンシップ、就職支援の3つのプログラムを中心に、正課の授業や正課外の多彩なプログラムを低年次から段階的に配置し、学生のキャリア形成と社会的・職業的自立を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生が心身ともに健康に修学できるように専門的な視点で、保健センターを中心に支援を行っている。保健センターの主な活動は、「健康管理」「学生相談」「修学支援（障がい学生等合理的配慮支援含む）」。 今日の健康管理は、「一次予防」（健康の保持増進）、二次予防（疾病の早期発見・早期治療）、三次予防（疾病の管理と適応の向上）を包括的に行うことが大切であり、保健室では、学生定期健康診断の実施に加えて、学校医や看護師による応急処置や健康相談を通じて、学生の健康管理を行っている。 また、ライフサイクルの視点でみると、学生時代は、青年期の終わりの時期にあたり、親からの自立や友人との関係の構築とともに、自分自身のアイデンティティの形成など、さまざまな課題があり、人生において大切な時期である。学生相談室では、このような課題に関連したさまざまな困難に直面した学生に対する支援として、カウンセラー（公認心理師/臨床心理士）による学生相談と精神科医による精神保健相談を行っている。 その他、障害者差別解消法施行に基づいて、身体や感覚機能などに障がいをもつ学生、合理的配慮が必要な学生の支援を行っているが、その中で大学生活支援室では、専門医師や修学支援コーディネーターによる「専門的支援」を行っている。 加えて、保健センター3室では、それぞれが主催で学生支援講座・講習会を開催している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：公開データ一覧 <https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F123310106648
学校名 (〇〇大学 等)	南山大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人南山学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		650人（ 29 ）人	646人（ 34 ）人	693人（ 42 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	348人	350人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	164人	163人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	95人	78人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	14人	20人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	29人	34人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－（ 0 ）人
合計（年間）				699人（ 42 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	17人	人	人
計	28人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	30人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	81人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	19人	人	人
計	91人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。